



市立三次中央病院 緩和ケアセンター主催  
緩和ケア月例公開研修会⑩《通算第46回》

- 日時：令和2年1月27日（月）  
**18:30**～19:30 講義・Q&A
- 会場：市立三次中央病院  
健診センター2階 講堂
- 演題

## 終末期ケアに欠かせない 身体症状緩和の最新技術 —「こころ」は「からだ」に従う—

健康者にとって自分の身体が自分の思い通りに動くのは当たり前、なのですが、人生の終末になるとその通念がくつがえされ、自分の身体は思うにまかせず、身体の苦しみが次第に増えてきます。すると身体が自分の思い通りにならないことによる心の痛みも重なって痛みが倍増します。身体の苦しみが心の痛みを生むことをよく心得て、身体の痛みを少しでも和らげるよう常に心がけましょう。それが心の痛みをも和らげることに繋がります。

市立三次中央病院 緩和ケア内科医長  
佐伯 俊成

### <講師略歴>

佐伯 俊成(さえき としなり)：

昭和60年広島大学精神科入局。JA吉田総合病院、広島市民病院、中国労災病院、安佐市民病院、東京都立墨東病院などの精神科を経て、平成8年から広島大学病院精神科助手。平成10年同医局長。平成14年同講師。平成16年同総合診療科准教授。平成25年4月から現職。平成28年10月緩和ケアセンター長兼務。外来・入院緩和ケアに加えて近年は在宅緩和ケアにも注力する。うつ病ケアと自殺対策、認知症ケア、精神科救急にも通暁。厚生労働省精神保健指定医、日本心身医学会心身医療認定医、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学指導医・専門医、日本精神神経学会指導医・専門医。

